

それにもまして、例えば貿易摩擦にみるような国際化とは、いったい何であろうか。簡単な例だけど、いまパリでは外国人労働者追い出しが激しい。私なんかフランス語も話せないで、なにもわからない。だが、スーパーマーケットで頑丈な黒人少年が掃除していた。そこに14.5才ぐらいの、いかにも腕白野郎といった白人の少年4.5人がはいつてきて、いきなりその中で一番小さい白人の少年が、黒人にツッカカッタ。黒人が怒って押したら、白人の少年はたおれた。別の白人は止めようとする者と、チビの白人少年に加勢しようとする者まで巻き込んで乱闘になった。チビ白人少年は銃をとってきて撃ち殺すぞと叫んでいる。やがてマネージャーが出てきて追い出した。白人の少年達は「ナチス万歳」と叫んだ。現実にはこのような光景が時々あるのである。

また1987年7月24日毎日新聞朝刊3面に、4段の大きい見出しで「ココム違反事件」とあって、「困惑一米の日系人」「中曽根発言に続き」「反日感情ぶつけられ」「セントポール（米ミネソタ州）二十三日阿部菜穂子特派員」で次のように報じられている。

東芝機械のココム（対共産国輸出統制委員会）違反事件は米議会を中心に強い反発を招いているが、米国在住の日系人の間にも大きな波紋を呼んでいる。首都*ワシントンはもちろん、中西部でも「我々は大きな迷惑を受けている」などの声があがり、二つの“祖国の間で在米日系人は揺れる。

「いったい日本人は、どう思っているのか」一ボールイガサキ氏（31）とウィリアム・ヨシノ（40）は怒りを隠さなかった。イリノイ州シカゴに住む日系三世のアメリカ人。事件によってアメリカ人の反日感情を浴びせられ、日系人がいい迷惑を受けているというのだ。

「日本人が何をしようが私たちには関係ありませんが、この国でやっと実を結び始めた日系アメリカ人の権利拡張運動を妨げてほしくないのです」と二人。ヨシノ氏はシカゴ市の「日系アメリカ人連盟」のリーダー。イガサキ氏は同連盟メンバーであると同時に市の「アジア系アメリカ人問題委員会」委員長を務めている。米国社会に抜きがたいアジア人差別や日系アメリカ人収容の補償金問題などと取り組んでいる二人は“東芝事件”が貿易摩擦から続いているアメリカ人の反日感情をあおり、人種的偏見となって彼らの運動に影響を与えるのではないかと心配する。反日感情は、昨年の中曽根首相の“知的水準発言”から顕著になってきた。とイガサキ氏は言う。当時、ヒスパニック（スペイン）系アメリカ人の一人は「われわれはこんなに日本の事や電気製品を買っているじゃないか。それなのにバカにするのなら、日本製品は締め出した方がいい」とイガサキ氏を責めた。イガサキ氏は最近日系二世から「日本政府に抗議せよ」という手紙を受け取った。「米国の世論に応じて東芝本社の社長、副社長が退陣したのは良かったと思う」と同氏。「それにしても、もし自分が日本企業の幹部だったら、もうけることばかりじゃなくて、たとえば奨学金を出して黒人や少数民族を日本に招いて勉強させるとか、考えますけどねえ…。イガサキ氏はこう言って首をかしげた。